

リーダーシップと人を惹きつける魅力に関する研究

Study about the relation between leadership and attractiveness

1K05B014

指導教員

主査 間野義之先生

井神 慎介

副査 横山文人先生

1、背景

私は 6 歳から 23 歳までチームスポーツであるサッカーに関わってきた。そこで様々な監督や主将、自然と周りに人が集まる人や周りを惹きつける人を見てきた。また私自身も主将や副主将を務めてチームの中心になる機会があった。このような経験からリーダーや周りを惹きつける人とはどのような人なのかという事に興味がわいてきた。また一般論で考えると集団や組織において、リーダーシップのよしあしが成功・失敗に大きな影響を与えており、目標を定めて目標に向かう際には常に優秀なリーダーがいるといっても過言ではない。教育、産業、行政、スポーツ、社会そのほか各種の集団で優れたリーダーシップが求められている。では優秀なリーダーというものはどのような要素を持った人物なのか。世の中、まったく同じ人間はいないがリーダーになる人物に共通するものは一体なのだろうか。リーダーは人を惹きつける魅力が多かれ少なかれ持っている人物だと私は考える。そこで人を惹きつける魅力とリーダーとの関係とはどのようなものなのかという思いから本研究を始めるに至った。

2、研究目的

本研究では、過去から現在に至るまでになされてきた従来の社会心理学におけるリーダーシップの研究から現状を把握する。そして、リーダーシップにとって重要な要素である変数を導き、人を惹きつける魅力にとって重要な変数との関係性について明らかにすることを目的とする。

3、研究方法

3.1. データの収集

早稲田大学スポーツ科学部に所属する大学生・大学院生(男性79名、女性25名)を対象者とした。平均年齢は 21.16 ± 1.540 歳であった。アンケート用紙を各学年に配布し、各質問にこたえてもらった。調査実施日は11月25日であった。調査実施場所は早稲田大学所沢キャンパスであった。

3.2. 予備調査

早稲田大学スポーツ科学部に所属する大学生(男性28名、女性7名)を対象者とした。中田英寿、イチロー(鈴木一郎)、北島康介の3名は予備調査から抽出した。予備調査はスポーツ選手を40名提示して、35名に投票してもらい上位の人を選んだ(複数回答可)。

3.3. 本調査

3.3.1 .調査項目

年齢、性別と魅力度とリーダー適格度と29項目からなるイメージ項目を提示した。魅力度とリーダー適格度とイメージ項目は中田英寿、イチロー、北島康介の3名についてそれぞれに質問した。質問した29項目は下記の通りである。

見識のある、ずけずけ言う、冷静沈着である、説得力のある、自己主張の強い、民主的な、協調性のある、自己中心、決断力のある、人の気持ちが分かる、親分肌、寛大である、頭のきれる、粘り強い、フェアである、仕事の鬼、独断的である、統率力のある、先見性のある、要領の良い、押さえのきく、話し上手、人の扱いがうまい、仕事ができる、思いやりのある、太っ腹である、八方美人、

バイタリティのある、ユーモアのある。この質問項目は松原(1995)が作成した、認知されたリーダーの資質の因子構造の項目から成る質問項目を参考にした。

3.4 分析方法

本調査の結果出力及び分析は SPSS for windows 15.0J を用いた。人を惹きつける魅力の要素とリーダーに必要な要素との比較を行った。

4、結果・まとめ

リーダーにとって重要な要素である変数と人を

惹きつける魅力にとって重要な変数を明らかにしたところ、「説得力のある」、「人の気持ちが分かる」という2つの項目が共通してみられるということが分かった。つまり、魅力的なリーダーは「説得力のある」、「人の気持ちが分かる」という2つの要素を兼ね備えている人であるといえる。また、魅力的な要素がなくても、「八方美人」、「統率力」、「見識のある」の3つの項目を高いレベルで持ち合わせていたら、リーダーとしてフォロワーから認められる可能性が十分にあるといえる。